



**2019年度  
第2四半期 決算補足資料  
2019年11月5日**

**株式会社UACJ**

## 1. 2019年度 上期業績

## 2. 2019年度 通期業績見通し

## 3. 財務状況

## 4. タイ、北米の状況 ～2019年度上期総括と今後の見通し

## 5. 構造改革の進捗

# 1. 2019年度 上期業績

## 経常利益 4億円（前年同期比 72億円減）

### ■ 数量：前年同期比増

- ・国内、UATH<sup>\*1</sup>（タイ）、TAA<sup>\*2</sup>（米国）の缶材が増加
- ・自動車向けが増加

### ■ 経常利益：前年同期比 72億円（94.6%）減

#### ◎ 増益要因

- ・CUA<sup>\*3</sup>合併解消による  
持分法損益の改善
- ・TAA業績改善  
（販売増/コストダウン効果）
- ・UATH業績改善

#### △ 減益要因

- ・棚卸評価関係による減益
- ・経営環境悪化継続による販売減  
（中国経済の減速/米中貿易摩擦等）
- ・エネルギーコストの増加

# 2019年度 上期業績



(単位：億円)

	2018年度 上期 (A)	2019年度 上期 (B)	増 減 (B) - (A)
連 結 売 上 高	3,309	<b>3,146</b>	△163
連 結 営 業 利 益	119	<b>34</b>	△85
棚 卸 影 響 前 連 結 経 常 利 益	16	<b>39</b>	23
棚 卸 影 響 額	60	△ <b>35</b>	△95
連 結 経 常 利 益	76	<b>4</b>	△72
連 結 当 期 純 利 益	24	△ <b>34</b>	△58
Adjusted EBITDA	211	<b>222</b>	11

※ 連結当期純利益：親会社株主に帰属する四半期純利益  
 ※ Adjusted EBITDA：EBITDA - 棚卸評価関係

# セグメント別 売上高・営業利益

(単位：億円)

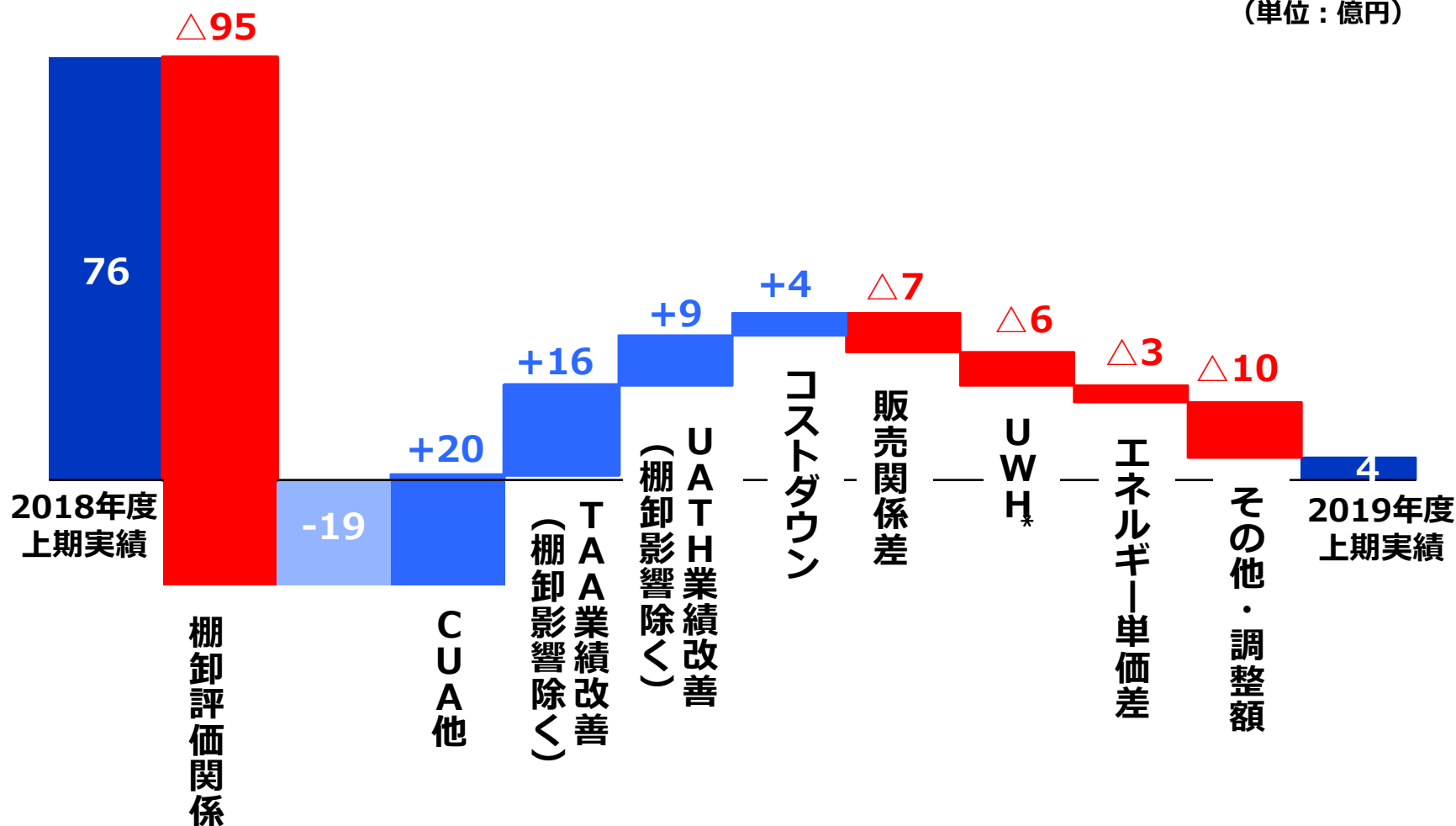
	2018年度 上期 (A)		2019年度 上期 (B)		増 減 (B) - (A)	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
アルミ圧延品	2,655	128	<b>2,533</b>	<b>48</b>	△122	△80
伸銅品	240	11	<b>229</b>	<b>4</b>	△11	△7
加工品・関連事業	971	15	<b>972</b>	<b>12</b>	1	△3
(調整額)	△557	△35	<b>△588</b>	<b>△29</b>	△31	5
合 計	3,309	119	<b>3,146</b>	<b>34</b>	△163	△85

# 連結経常損益分析

(2018年度上期実績 → 2019年度上期実績)

76億円 (2018年度 上期実績) → 4億円 (2019年度 上期実績)

(単位：億円)



# アルミ板 品種別売上数量



(単位:千トン)

品 種	2018年度 上期 (A)	2019年度 上期 (B)	増 減 (B) - (A)
缶 材	322	350	28
箔 地	25	22	△3
I T 材	8	9	1
自 動 車 材	70	74	4
厚 板	24	17	△7
その他一般材	85	104	19
合 計	533	576	43
	〔 国内市場向け 260 海外市場向け 274 〕	〔 国内市場向け 256 海外市場向け 320 〕	〔 △4 47 〕



## 2. 2019年度 通期業績見通し

# 2019年度 通期業績見通し



(単位：億円)

	2018年度 (A)	2019年度 (5月時開示) (B)	2019年度 (見通し) (C)	増減 (C) - (B)	増減 (C) - (A)
連結売上高	6,613	7,100	6,700	△400	87
連結営業利益	149	175	100	△75	△49
棚卸影響前 連結経常利益	30	115	95	△20	65
棚卸影響額	32	△5	△55	△50	△87
連結経常利益	62	110	40	△70	△22
連結当期純利益	11	35	-	-	-
Adjusted EBITDA	426	520	482	△38	56

年間配当 未定

# 設備投資・減価償却費

(単位：億円)

		2018年度 上期	2018年度 通期	2019年度 上期	2019年度 見通し
設備投資	一般投資	80	161	80	180
	戦略投資	206	365	187	390
	合計	286	525	267	570
減価償却費		132	307	153	327
戦略投融资		25	-	-	7

# 3. 財務情報

	2019/3末	2019/9末
自己資本（億円）	1,910	1,830
自己資本比率（%）	23.7	24.2
有利子負債（億円）	3,751	3,641
D / E レシオ*（倍）	1.68	1.69
R O E（%）	0.6	-

\*劣後ローンの資本性考慮後

## 4. タイ、北米の状況 ～2019年度上期総括と今後の見通し

## 第3期設備も本格稼働、2019年 4Qでの営業黒字 (体質) を確立する

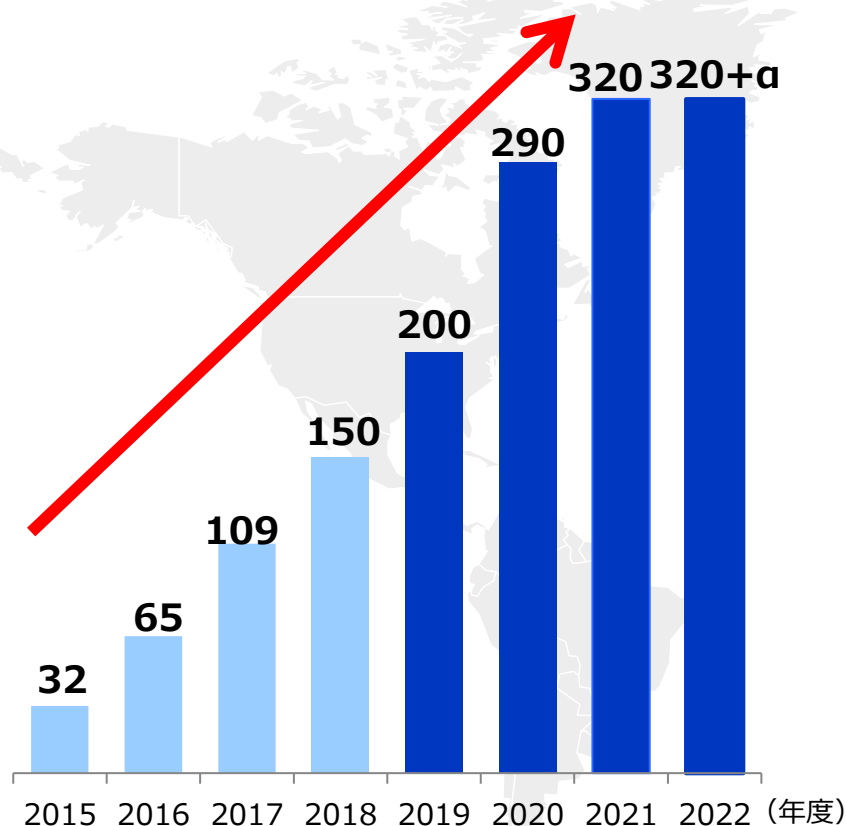
### 2019年度 上期総括

- ・東南アジアを中心に缶材需要は堅調
- ・第3期設備が稼働、月産数量も増加
- ・販売量 第2四半期 (4月-6月) 約13千t/月
- ・損益 概ね予定通り進捗

### 今後の見通し

- ・年間20万tの販売計画に変更なし
- ・販売量: 第3四半期 約16千t/月  
第4四半期 20千t超/月を予定

### UATH 年間販売量 (千t)



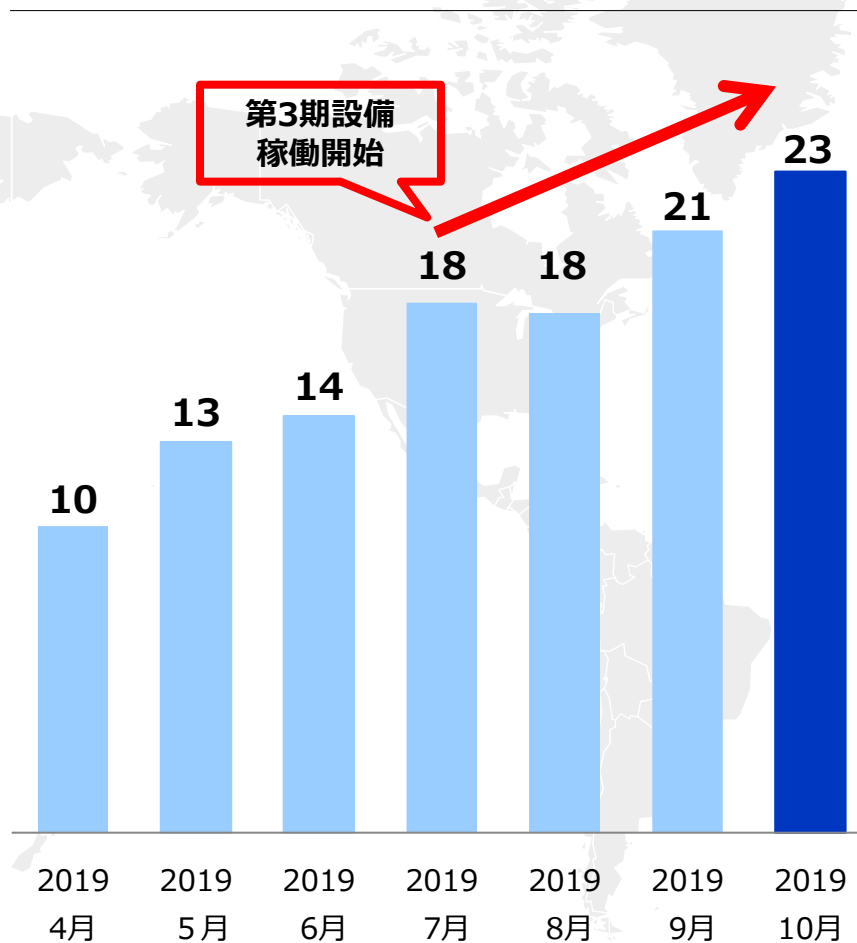
## 第3期投資の稼働開始で、生産数量アップとコスト削減を実現

### 生産体制

- 第3期設備本格稼働により月産20千t体制を確立
- 現地従業員の熟練度向上に伴い生産効率も向上



### UATH 月次生産量 (単位: 千t)





## 旺盛な缶材需要の中、販売増・価格改定を実現

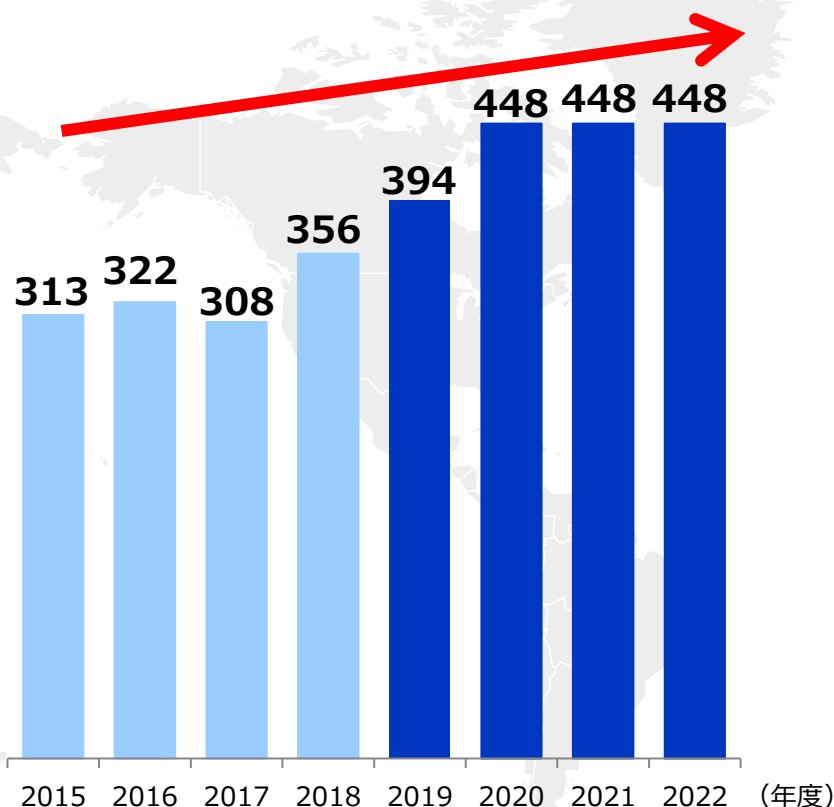
### 2019年度 上期総括

- ・北米缶材需給はタイトな状況継続
- ・環境意識の高まり→アルミ缶ニーズ拡大
- ・缶材のフル生産・フル販売継続
- ・大口案件獲得（販売単価アップ）

### 今後の見通し

- ・缶材需給はタイトな状況が引き続き、継続
- ・下期増産分の販売契約は既に締結
- ・販売数量：2020年度 約450千t体制へ

### TAA 年間販売量（千t）

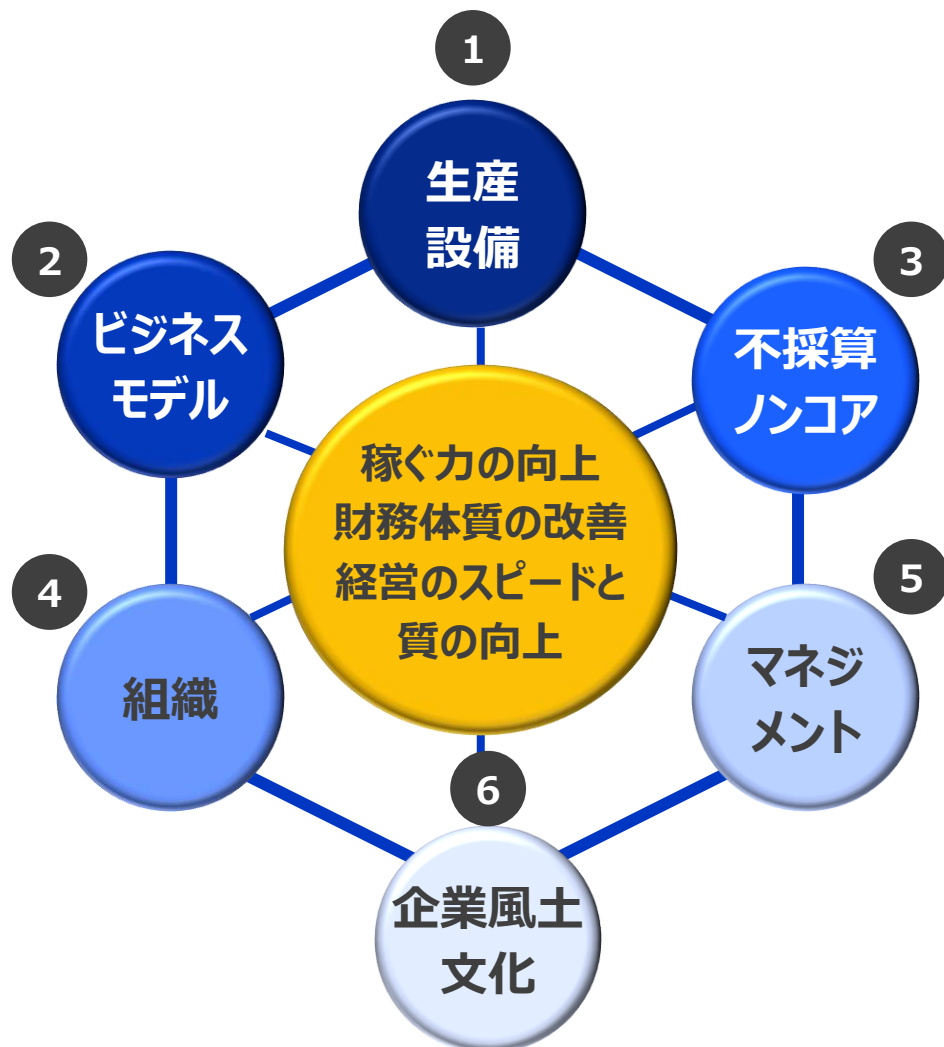


## 欧米を中心に廃プラ・ペットボトルを禁止する動きが加速



## 5. 構造改革の進捗

構造改革の6つの要素を有機的に連携させ筋肉質な企業体を目指す



## 構造改革の6つの要素

### 1. 生産設備

- ・国内：集約による稼働率の向上
- ・海外：設備能力の最大活用

### 2. ビジネスモデル

- ・ソリューション型への転換
- ・品種選択、価格是正

### 3. 不採算・ノコア分野

- ・売却と撤退の検討

### 4. 組織

- ・間接部門のスリム化

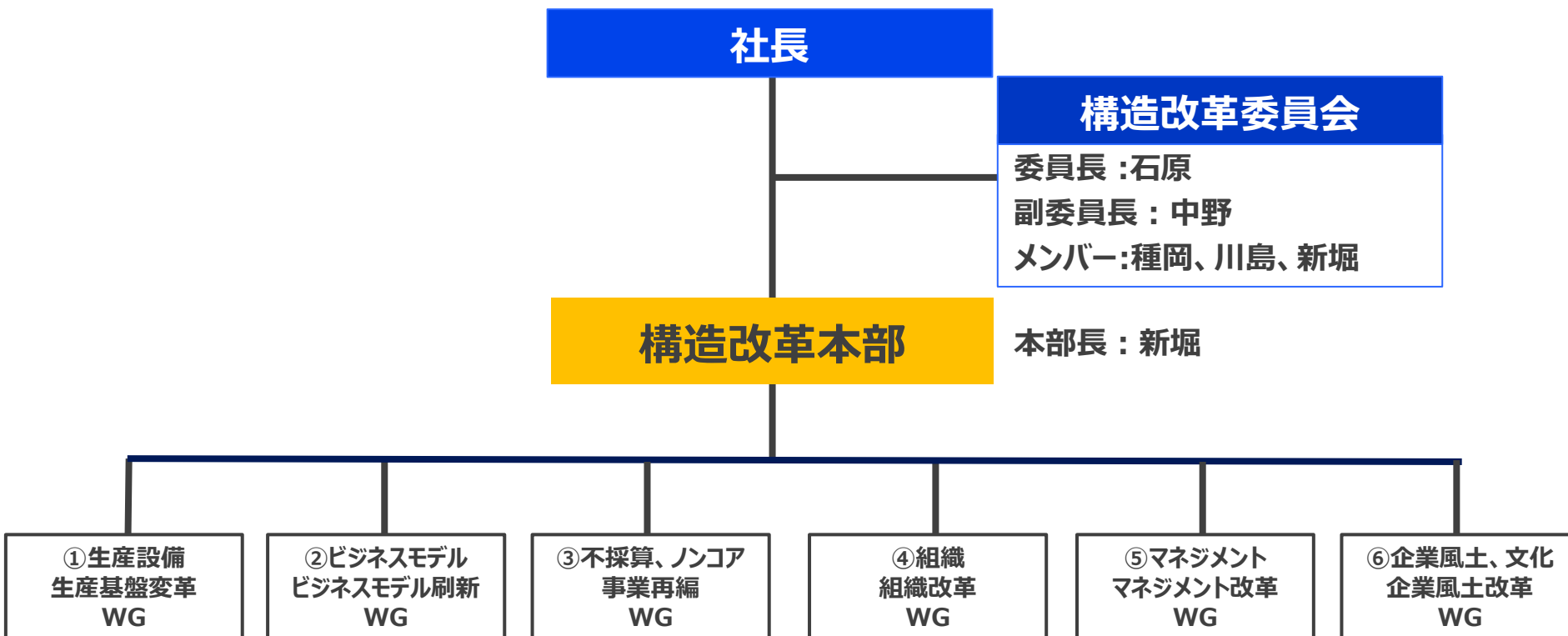
### 5. マネジメント

- ・役員体制のスリム化
- ・経営データの可視化

### 6. 企業風土・文化

- ・新生・UACJとして、大事にしたい  
理念・価値観の再確認と再構築

構造改革本部の下に“6つのWG”を設置し、迅速に構造改革を成し遂げる



1. 構造改革委員会
2. 構造改革本部
3. ①～③のWG

10月 上記メンバー確定・委員会実施  
専任スタッフ決定  
各事業部門にて構造改革案に沿って実施中

# ご参考データ

# 2019年度 セグメント別 売上高・営業利益 見通し

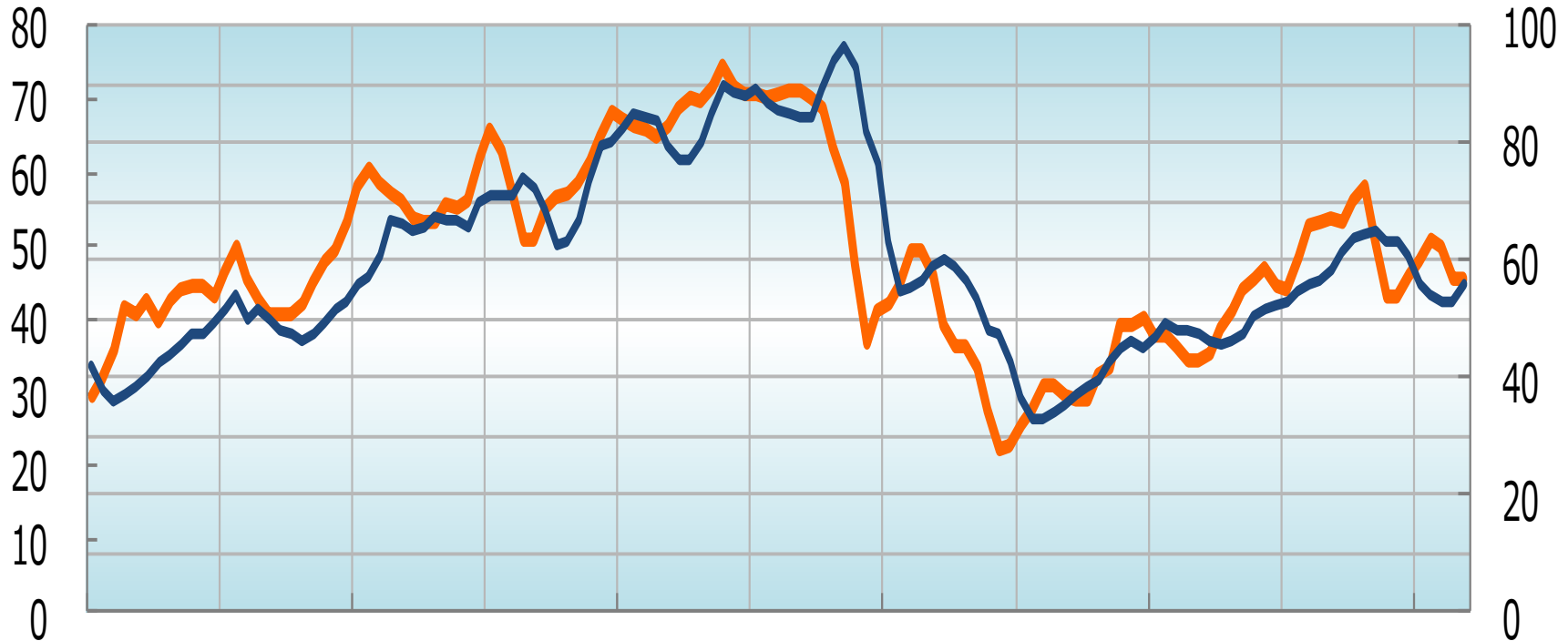


(単位：億円)

	2018年度 (A)		2019年度 (8月時見通し) (B)		2019年度 (今回見通し) (C)		増減 (C) - (B)		増減 (C) - (A)	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
アルミ 圧延品	5,307	170	5,412	133	5,425	133	13	0	118	△37
伸銅品	475	17	242	8	229	4	△13	△4	△246	△13
加工品・ 関連事業	1,971	31	2,087	30	2,087	30	0	0	116	△1
(調整額)	△1,140	△70	△1,041	△71	△1,041	△67	0	4	99	3
合計	6,613	149	6,700	100	6,700	100	0	0	87	△49

原油 CIF  
(円/L)

LNG CIF  
(円/Kg)

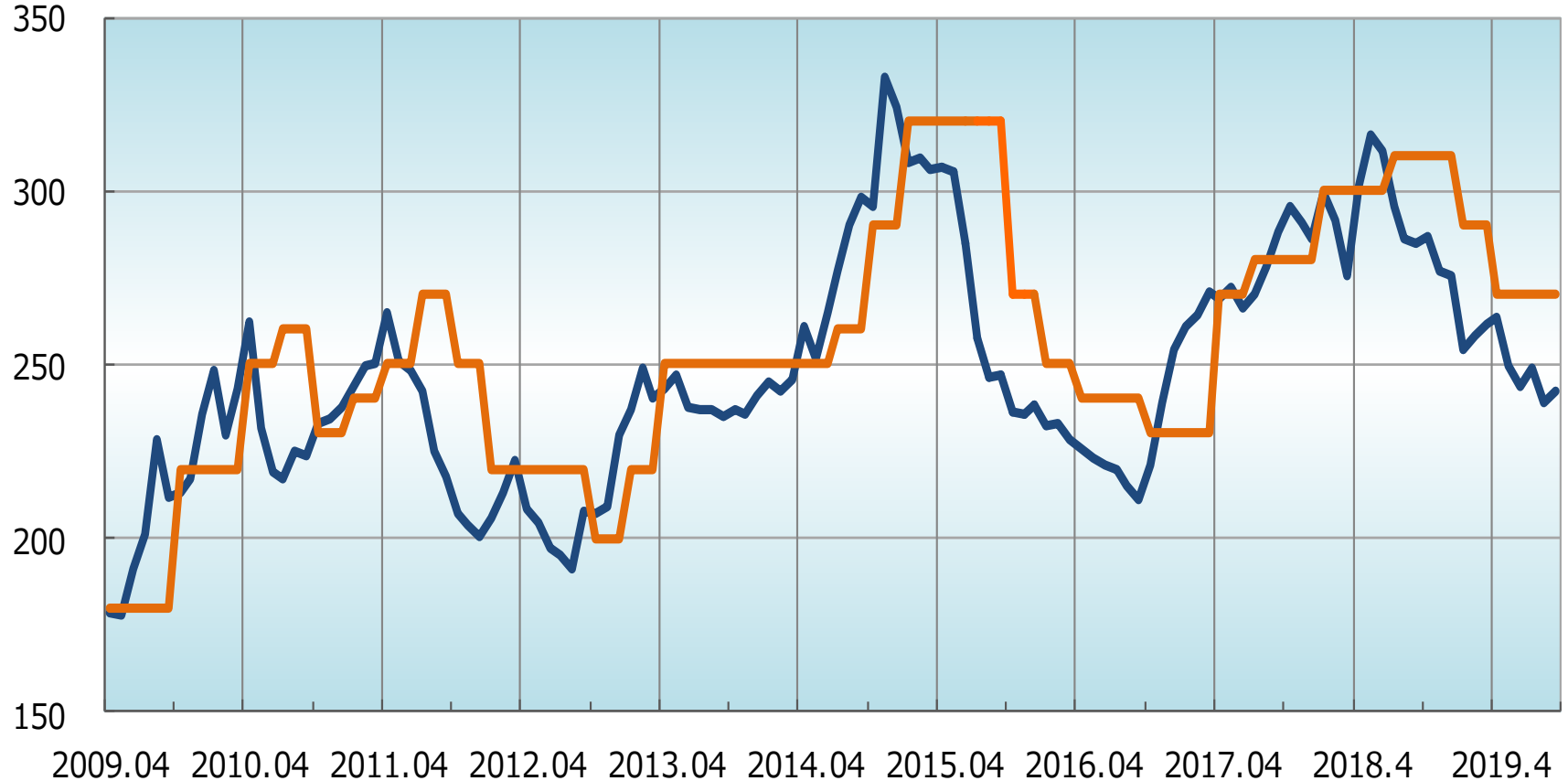


2009.04 2010.04 2011.04 2012.04 2013.04 2014.04 2015.04 2016.04 2017.04 2018.04 2019.04

— LNG CIF (円/Kg) — 原油CIF (円/L)



(円/Kg)



— アルミ日経市況

— アルミ基準地金

	2018年度 (実績)	2019年度 (1Q時見通し)	2019年度 (下期見通し)	経常利益への 感応度
アルミ地金 日経平均 (円/kg)	284	257	242	10円/kg上昇した場合 → +20～+30億円/年
LME (米\$)	2,035	1,800	1,750	\$100/t上昇した場合 → +22～+35億円/年
為替 (円/米\$)	111	108	107	ほぼ影響なし ・燃料単価、添加金属：円高が有利 ・ロールマージン、為替換算差：円安が有利
為替 (円/タイバーツ)	3.4	3.5	3.5	
原油 (ドバイ：米\$)	72	68	68	10ドル上昇した場合 → △10～△15億円/年

## 将来情報についての注意事項

この資料に記載されております売上高及び利益等の計画のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、当社グループの各事業に関する業界の動向についての見通しを含む経済状況ならびに為替レートの変動その他の業績に影響を与える要因について、現時点で入手可能な情報をもとにした当社グループの仮定及び判断に基づく見通しを前提としております。

これら将来予想に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しており、実際の売上高及び利益等と、この資料に記載されております計画とは、今後さまざまな要因によりこれらの業績見通しとは大きく異なる場合があり、確約や保証を与えるものではないことをご承知おきください。また、本資料は投資勧誘の目的のための資料ではありません。

## 著作権等について

この資料のいかなる部分についてもその著作権その他一切の権利は、株式会社UACJに帰属しており、あらゆる方法を問わず、無断で複製または転用することを禁止します。

本資料ならびに I R 関係の問い合わせにつきましては、下記までお願いいたします。

コーポレートコミュニケーション部 TEL : 03-6202-2654 FAX : 03-6202-2021

URL : <http://www.uacj.co.jp>

(東証1部 コード番号 : 5741)